

令和 2年 3月

伊丹菜菜瀬 学位論文審査要旨

主 査 景 山 誠 二
副主査 尾 崎 米 厚
同 林 眞 一

主論文

Alternative activation of macrophages in mice peritoneal cavities and diaphragms by newborn larvae of *Trichinella spiralis*

(旋毛虫の新生幼虫によるマウス腹腔と横隔膜のマクロファージの代替的活性化)

(著者：伊丹菜菜瀬、近藤陽子、蓼本早百合、伊藤大輔、福本宗嗣、大槻均)

令和2年 Yonago Acta Medica 63巻 34頁～41頁

参考論文

1. Molecular cloning and characterization of plerocercoid-immunosuppressive factor from *Spirometra erinaceieuropaei*

(マンソン裂頭条虫由来のプレロセルコイド免疫抑制因子の分子クローニングと特性)

(著者：近藤陽子、伊藤大輔、蓼本早百合、伊丹菜菜瀬、西方修馬、高島英造、
坪井敬文、福本宗嗣、大槻均)

令和2年 Parasitology International 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は、旋毛虫の新生幼虫に対するマクロファージの役割について検討したものである。C57BL/6マウスに幼虫を経口感染させ、感染初期のマウス腹腔・横隔膜のマクロファージの古典的活性化（TNF α 、IP-10、iNOSの遺伝子発現）と代替的活性化（Ym1、Arg1の遺伝子発現）を解析した。その結果、腹腔及び横隔膜で新生幼虫に作用するマクロファージは、主に代替的活性化であることが確認された。さらに、その作用は宿主細胞による細胞応答を介したものであることが示唆された。本論文の内容は、旋毛虫症に対する免疫応答の理解を高めたものであり、明らかに寄生虫学領域の学術水準を高めたものと認める。